



令和4年3月17日

**日本のB型・C型を合わせた肝炎ウイルス持続感染者数が
2030年には2015年と比べ約1/2となることを予測
- ウイルス肝炎撲滅のためにさらなる努力が必要 -**

論文掲載

【本研究成果のポイント】

- National database (NDB)や全国初回献血者集団等のリアルデータベース、政府の公表統計資料および、大規模血清疫学調査から得た成果をもとに、2015年時点のC型肝炎ウイルス(HCV)・B型肝炎ウイルス(HBV)の持続感染者数を算出し、また2035年までの予測を行いました。
- 2015年時点の肝炎ウイルス持続感染者は191~249万人であり、これは2000年と比較して32.0~36.8%減少でした。
- さらに、2030年には推定92~130万人まで減少すると推定しました。
- 2030年にWHOが掲げた肝炎ウイルス撲滅達成には、日本では、検査未受検のC型肝炎ウイルス持続感染者を有効な抗ウイルス治療に結びつけることに力を入れるべきです。また、B型肝炎ウイルス排除可能な新治療薬の開発が不可欠です。

【概要】

広島大学大学院医系科学研究科 田中 純子教授らの研究グループは、日本における2015年時点の肝炎ウイルス持続感染者数の算出と2035年までの動向を予測しました。

最初に、NDB (National database)から正確に患者数を算出するための方法を検証しました。次に、厚生労働省の公的資料や日赤初回献血者集団のHBV・HCV感染率の資料や、大規模血清疫学調査から得た成果を基に2035年までの持続感染者数の予測を行い、WHO目標「2030年までのウイルス肝炎撲滅」に向けた進捗状況を評価しました。

本研究は、厚生労働科学研究費補助金 肝炎等克服政策研究事業「肝炎ウイルス感染状況の把握及び肝炎ウイルス排除への方策に資する疫学研究」の一環として行われました。

本研究成果は、2022年3月16日に国際科学誌「The Lancet Regional Health - Western Pacific」に掲載されました。

【発表論文】

- 掲載誌 : The Lancet Regional Health - Western Pacific
- 論文タイトル : Burden of chronic hepatitis B and C infections in 2015 and future trends in Japan: A simulation study
- 著者名 : Junko Tanaka^{1,2}*, Akemi Kurisu^{1,2}, Masatsugu Ohara^{3,4}, Serge Ouoba^{1,5}, Masayuki Ohisa^{1,2}, Aya Sugiyama^{1,2}, Michelle L. Wang^{2,6}, Lindsey Hiebert^{1,7}, Tatsuya Kanto⁸, Tomoyuki Akita^{1,2} *
- 1. Department of Epidemiology, Infectious Disease Control and Prevention, Graduate school of Biomedical and Health Sciences, Hiroshima University
- 2. Project Research Center for epidemiology and prevention of viral hepatitis and hepatocellular carcinoma
- 3. Department of Gastroenterology and Hepatology, National Hospital Organization Hokkaido Medical Center, Hokkaido, Japan
- 4. Department of Gastroenterology and Hepatology, Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine, Hokkaido University, Hokkaido, Japan

5. Unité de Recherche Clinique de Nanoro (URCN), Institut de Recherche en Science de la Santé (IRSS), Nanoro, Burkina Faso
6. Department of Chemistry and Chemical Biology, Harvard University, 12 Oxford Street, Cambridge, MA 02138, USA
7. Coalition for Global Hepatitis Elimination, The Task Force for Global Health
8. The Research Center for Hepatitis and Immunology, National Center for Global Health and Medicine

* Corresponding author (責任著者)

■ DOI: 10.1016/j.lanwpc.2022.100428

【背景】

B型肝炎ウイルス (HBV)・C型肝炎ウイルス (HCV) の持続感染は、肝硬変・肝癌の主病因であり、死亡リスクを上昇させます。2019年時点、WHOは世界で2億9600万人がHBVに、5800万人がHCVにそれぞれ持続感染しており、それが世界人口の4.4%に相当すると推定しています (WHO. Global progress report on HIV, viral hepatitis and sexually transmitted infections, 2021)。

日本における肝炎ウイルス持続感染者数は、2000年時点300~366万人、2011年時点209~284万人と厚労省肝炎疫学研究班から報告されています (Tanaka J et al, *J Viral Hepat.* 2018 ;25(4):363-372.)。

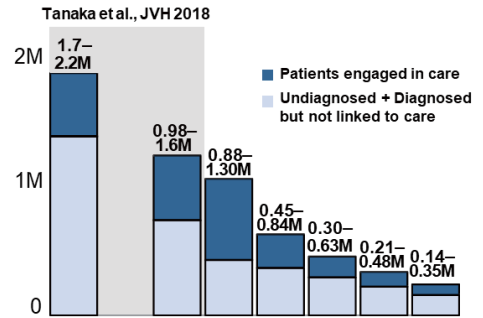
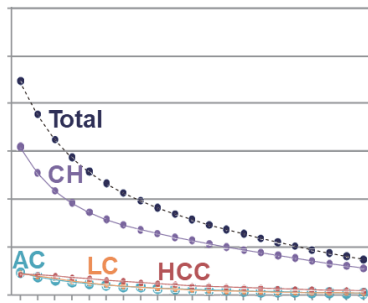
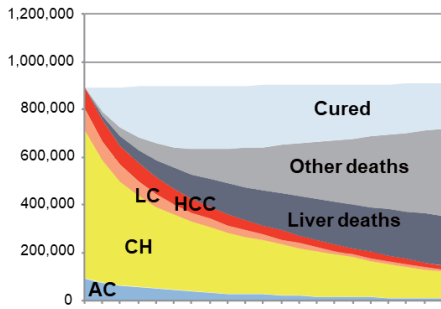
HBワクチンの普及や、ウイルス排除が可能なHCV DAA治療薬の開発と普及により、WHOは2030年までのウイルス肝炎撲滅の目標を2016年に掲げました。

日本の肝炎ウイルス対策への歴史は長く、1986年から開始したHBV母子感染防止事業や2002年から開始された老人健康事業/健康増進事業による住民健診への肝炎ウイルス検査、2008年に開始した肝炎医療費の公的助成など、世界に先駆けて実施しています。今後10年以内にウイルス肝炎撲滅を達成可能な主要国の一つに日本が含まれています。

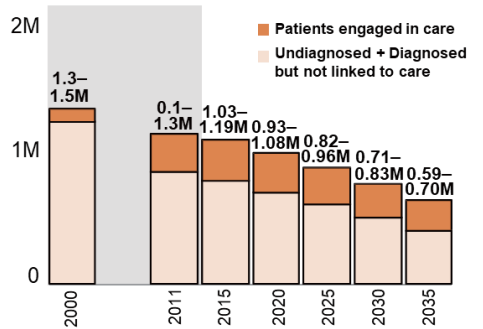
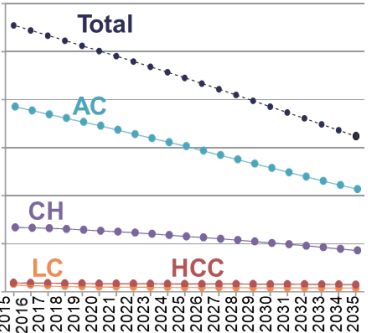
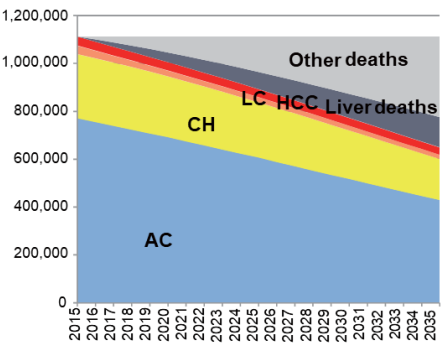
【研究成果の内容】

- 2015年時点の肝炎ウイルス持続感染者数は191-249万人であり、内訳はHCV 87 - 130万人、HBV 103 - 119万人でした。また、持続感染者のうち、98万人 (HBV 33万人/HCV 65万人) が患者として病院受診していますが、68万人 (HBV 45万人/HCV 23万人) は検査を受けておらず、25~83万人 (HBV 25~42万人/HCV 0-41万人) は検査陽性の通知を受けたが病院受診をしていないことが示されました。
- 将来推計では、2015年以降、肝炎ウイルス持続感染者数は減少する見込みです。特にHCVは急速に減少し、2030年には、21-48万人、2035年では14-35万人と推定されました。
なお、この推計値は、肝炎ウイルス検査、医療機関受診や治療導入を抑制する可能性のあるCOVID-19のパンデミックに対応する日本政府による制限措置など、さまざまな状況によって影響を受ける可能性があるため、ウイルス肝炎の対策の有効性と目標に向けた進捗の評価のためには、肝炎ウイルス持続感染者数の継続的な把握と予測が必要です。

A) HCV



B) HBV



肝炎ウイルス持続感染者数の動向と将来推計

【今後の展開】

日本は 2030 年のウイルス肝炎撲滅に向けて前進していることを示しました。しかし、検査未受検の C 型肝炎ウイルス持続感染者を有効な抗ウイルス治療に結びつけることに力を入れるべきです。また、B 型肝炎ウイルス排除可能な新治療薬の開発が不可欠です。

本研究グループでは、引き続き HBV・HCV 持続感染者数の推移をモニタリングし、受検・受診・受療や治療著効率に影響を与える新しい状況を想定して、資料の提示を行う予定です。

【お問い合わせ先】

広島大学 大学院医系科学研究科

疫学・疾病制御学 教授 田中 純子、講師 秋田 智之

Tel : 082-257-5160 FAX : 082-257-5164

E-mail : jun-tanaka@hiroshima-u.ac.jp

発信枚数 : A 4 版 3 枚 (本票含む)